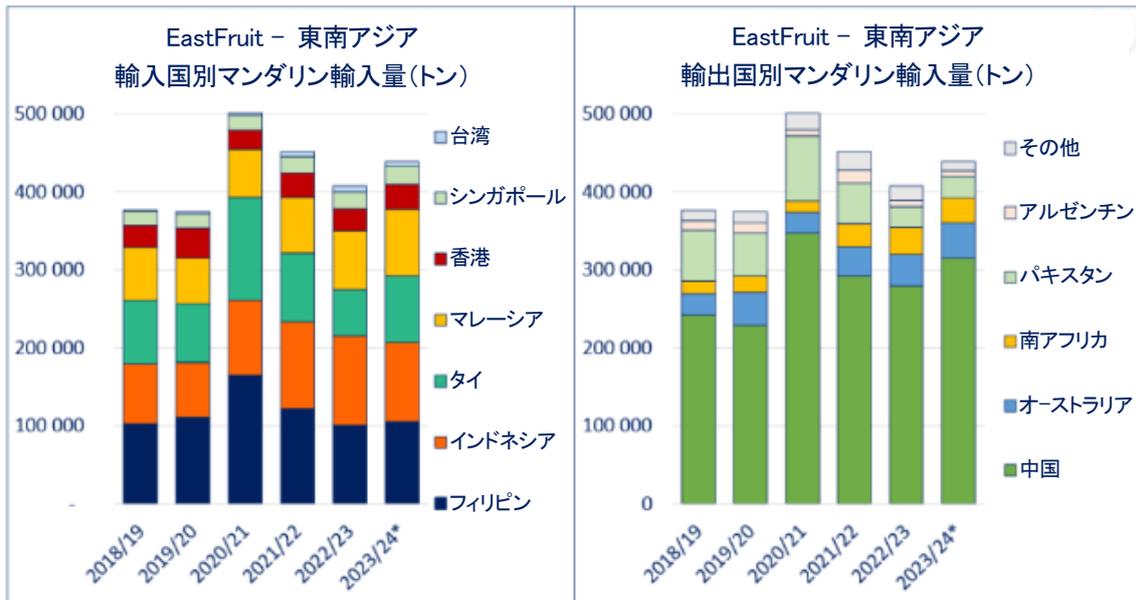


東南アジアのマンダリン市場は力強い成長の可能性

PRODUCE REPORT 2024年8月15日

果実業界メディアEastFruitのニュース記事によると、東南アジア地域*へのマンダリンの輸入は2年間減少していたが、2023/24年度に反発した。同年度の最終月を除く11カ月(2023年7月から2024年5月)にこの地域の主要な輸入市場(ベトナムを除く)は約44万トンのマンダリンを輸入し、前年度の年間輸入量を8%上回った。この傾向から判断すると、2023/24年度の最終的な輸入量は、2020/21年度に記録された過去最高の50万トンに迫る可能性がある。(原文注: この記事の「東南アジア地域」は、EastFruitの集計に従い香港、インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、台湾、タイを指し、ベトナムは別計上となっている。)



* 2023年7月～2024年5月のデータ データ出典: Global Trade Tracker(EastFruitによる分析) 訳注: 図はEastFruitから転載

EastFruitの果実と野菜の市場アナリストであり、国連食糧農業機関(FAO)の国際コンサルタントでもあるイェヴヘン・クージン氏は、東南アジア地域(ベトナムを除く)は潜在的に毎シーズン50万トンのマンダリンを輸入する可能性があり、さらに20～30万トンがベトナム市場に流入する可能性があると言及されている。これは、地域全体で1シーズン当たり最大80万トンのマンダリンを輸入できることを意味するが、それはロシアの年間輸入量(82～96万トン)に近く、欧州連合と英国の合計(72～77万トン)及び米国とカナダの合計(54～65万トン)を上回る。ヨーロッパや北米の市場とは異なり、東南アジア地域の市場の大部分は近い将来に急速に成長し、マンダリン供給国にとって大きなチャンスを生み出すと予想されている。

ベトナム以外のこの地域の主要なマンダリン輸入国・地域は、フィリピン、インドネシア、タイ、マレーシア、香港、シンガポール等であり、これらはすべて2018/19年度以降、柑橘類の輸入量を増やしている。フィリピンとタイの輸入の成長率は平均3%であるが、他の市場では18～34%の成長が見られる。台湾は比較的少ないながらマンダリンを輸出しており、シーズンによってはこの地域で唯一の純輸出国である。

FAOの青果物国際貿易コンサルタントであるハジェル・マグディ氏は、中国が東南アジア地域(ベトナムを除く)へのマンダリンの主要な供給国であり、総輸入量の61～68%を占めていると指摘した。中国はマンダリンをほぼ周年供給することができ、供給のピークは12月から1月である。中国の主な競合国は北半球ではパキスタン、エジプト、モロッコ等であり、他方、南半球の国々は主に7月から10月にかけて供給している。

今のところ、エジプトとモロッコは東南アジア地域での市場シェアが小さく、主に香港、マレーシア、シンガポールに供給しており、エジプトはインドネシアとベトナムにも輸出している。2022/23年度にはモロッコとエジプトはそれぞれ850トン及び4千トンを東南アジア市場に出荷した。しかし、2023/24年度には、紅海危機の影響でこれらの数字はそれぞれ630トン及び1,600トンに減少した。マグディ氏は、それでもエジプト産及びモロッコ産のマンダリンは、東南アジア地域において大変有望であると考えている。

執筆者: ジン・ザン